



長野高校
1 学年
SGH 通信

十世 知るべきや

第 1 号
2017 年 4 月 13 日
(木)

◇タイトルの由来

子張^{しちよう}問ふ、「十世^{じっせい}知るべきや。」と。

『論語』

子張が孔子に質問した、「（現在の周王朝が滅んで次の王朝が興り、またその王朝が滅んで、と）王朝の交替が十回も繰り返された先の社会がどうなっているかを知ることができるのでしょうか？」と。

『論語』は、今から 2,500 年ほど前の中国に生きた孔子（本名は孔丘、「子」は「先生」という意味）とその弟子たちの言葉や行いを記した本だと言われています。孔子は初め政治家として活躍しましたが、社会秩序が崩壊し力がものを言う戦国時代に向かう中で彼の人道主義は現実政治に適合できず、政治を離れて教育に力を注いでいきます。

子張は孔子の弟子の一人で、孔子より 50 歳近く年下だったと言われています。秩序が崩壊していく社会の中で、若い子張には、未来など想像もつかないと思えたのでしょうか。



http://museum.sinica.edu.tw/collection_detail.php?id=24&item=470

子曰はく、「*^{いん}殷は*^か夏の礼に因る。*損益する所知るべきなり。周は殷の礼に因る。損益する所知るべきなり。其れ或いは周に継がん者は、百世^{いへど}と雖も知るべきなり。」と。

*殷・夏：古代中国の王朝名。 *損益する：増減させる。足したり引いたりする。

孔子はおっしゃった、「殷の社会は（前代の王朝）夏の制度を土台にしていた。（殷の社会をよく見れば、夏の制度にどのようなものを）足したり引いたりしたのか知ることができる。周の社会は（前代の王朝）殷の制度を土台にしている。（周の社会をよく見れば、殷の制度にどのようなものを）足したり引いたりしたのか知ることができる。（社会が変わっても変わらないものと変わるものがある。だから）今後、周に引き続いて生まれる社会も、たとえ百代先であっても知ることができる。」と。

皆さんが高校生になって中学時代と全く違う人間になったわけではないように、「変化」とは「継続」の一つの姿でもあります。ただし、中 2 → 中 3 の変化と、中 3 → 高 1 の変化の大きさは桁外れに違いますね。同じように、今まで 20 年間とこれから 20 年間の変化の大きさは桁外れに違うはずです。そんな時代だからこそ、**長期的、かつ広い視野を持ち、「変えるべきは何か？変えざるべきは何か？」を探究する必要がある**、という孔子の主張が重みを持ちます。

しかし、同時に「十世知るべきや。」と問う子張の懐疑にも共感しませんか。「この混迷の世に未来を見据えることができるのか？」…子張が持つ時代の変化に対する繊細さと孔子が持つ人間の「知」への信頼。その両者を備え持ちたいものです。